

こども発達支援ガイド

ポコ ア ポコ Poco a Poco!

～少しずつ、確実に。

子どもの成長の芽を育むために～



高崎市こども発達支援センター

～はじめに～

この『Poco a poco』は、乳幼児から中学生まで、お子さんを育てていらっしゃるご家族や子どもたちに関わっている周囲の皆さんが、子どもたちの個性を知り、自信を持って関われるようにと、応援するパンフレットです。

子どもたちは10人いれば10とおりの育ち方があります。

バイオリンにはバイオリンの、フルートにはフルートの音色があるように、みんな違う個性を持って生まれてきます。

でも、子どもたちは最初から自分の個性をうまく表現できない場合があります。

ボクだってみんなと同じようにうまくなりたい！楽しくあそびたい！と思っても、なかなかうまくいかなかったり、困った子と誤解をうけて困っていることがあります。

そんなとき、子どもたちはさまざまなSOSのサインを出してくれます。

しかし、時にそのSOSのサインはととても分かりづらいことがあります。

そのため、家族や周囲の大人たちは、どう対応したらいいのだろうか、どうもうまく関われない、自分なりに子育てをしているけれどこのままで大丈夫だろうか、と不安になることもあるでしょう。

そのようなとき、このパンフレットを開いてみてください。

そしてもっともっとお子さんのことを知りたいと思われたら、こども発達支援センターを訪ねてください。

お子さんのいいところをどんどん探し、もっているステキな力を伸ばすことができるよう、SOSのサインを理解するヒントやそれに合せた関わりについて一緒に考えましょう。

きっと、皆さんがやってこられた毎日の生活の中にもうまくいくヒントがあるはずです。

『Poco a poco』とは、『少しずつ』という意味です。

子どもたちはゆっくりと少しずつ、でも確実に成長していきます。

そしてお子さんの個性が開くとき、お母さんやお父さん、おじいちゃんやおばあちゃんから受け継いできたステキな音色を奏でることでしょう。

Poco a poco。 少しずつ、でも確実に。

高崎市こども発達支援センター

もくじ

■はじめに

■気づいてほしいなSOS 乳幼児期・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

相談1 ことばが遅れているようで心配です

相談2 おちつきがなく、目が離せません

相談3 わけもなくパニックを起こします

相談4 友だちとうまくあそべません

相談5 スプーンやはさみが上手に使えません

相談6 人への関心がうすく、いつも一人であそんでいます

コラム 入園ワンポイントアドバイス

■気づいてほしいなSOS 学齢期・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

相談1 学校での勉強についていけません

相談2 人の気持ちや状況が理解できません

相談3 やる気がなく、学校を休みがちです

相談4 好きなことしかやりたがりません

相談5 片付けが苦手で、忘れ物も多くて困ります

相談6 落ち着きがなく集中が続きません

コラム 学校での支援を知ろう

■知ってほしいな、発達のこと・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

コラム 高崎市サポートファイル

■応援してほしいな、ぼく・わたしのこと・・・・・・・・ 9

■ひとりじゃないよ、ご家族支援・・・・・・・・ 10

■高崎市こども発達支援センターのご案内・・・・・・・・ 11

■相談機関のご案内・・・・・・・・ 13

■療育機関のご案内・・・・・・・・ 15

気づいてほしいな SOS（乳幼児期）

よく相談を寄せられる子どもたちのSOSを紹介いたします。子どもたちの様子をじっくり観察して、家庭や園でできそうなかわりから工夫してみてください。

相談1

ことばが遅れているようで心配です。

まずは観察

こちらの言ったことをどのくらい理解しているようですか？指差しなどことば以外の方法で自分の要求を伝えようとしていますか？自分の話したいことだけ話しておしまい、あるいは待っていられず話してしまう、それとも聞かれたことを話そうと一生懸命がんばっていますか？

ちよいと工夫

話せるようになるために、まずは理解できることばを増やしましょう。「ごはん、食べよう」など日常の動作を短く伝えたり、ことばと一緒に「絵」「写真」「実物」「動作」を見せると分かりやすく、コミュニケーションの楽しさにつながります。伝えたい、分かってもらいたいという気持ちとことばが育ってゆきます。



相談2

おちつきがなく目が離せません。

まずは観察

その場でどうすればいいか分かっていますか？親や先生のことを気にせず行動してしまいますか？思いっきり体を動かす時間や場所がありますか？ひとつの遊びにどのくらい集中しますか？にぎやかな場所に興奮してしまいますか？

ちよいと工夫

交通量の多い場所を歩かない、危険なものは隠すなど工夫をしつつ、具体的にどうしたらいいか伝えましょう。たとえば「走らないで」ではなく「手をつないで歩こうね」などです。人と一緒に何かをすると楽しい！という体験も有効です。元気いっぱいの場合には安全な場所でたくさん体を動かすあそびを、興奮しやすいようなら落ち着く場所で過ごすなどで、その後の活動に集中して取り組める力につながります。



相談 3

わけもなく、パニックを起こします。

まずは観察

パニックには何らかの理由があるものです。どのようなときにパニックを起こしますか？いまやっているあそびや欲しいものをとめられたとき？「ダメ」「○○しなさい」と言われたとき？音やにおい、暑さや寒さ、洋服のチクチクや食べ物などが不快な感覚となり、パニックにつながることもあります。

ちょっと工夫

切り替えが苦手な場合は、ものごとにはおわりがあり、ひとつが終わったら次の予定にうつる、ということを事前に伝えることが有効です。絵や写真を見せながらも分かりやすいでしょう。感覚の過敏性はそのことを言えずにいる場合が多いもの。

様子を見てあげましょう。パニックを起こすと思い通りになると間違っていて覚えている場合もあります。今回だけね、などの例外は誤学習のもとです。



相談 4

友だちとうまくあそべません。

まずは観察

どうやったらあそびに入れるか分からない、ルールがわからないなど、ことばでうまく伝えられず手が出てしまうなど、困っている様子が見られますか？

ちょっと工夫

ルールを絵に描いたり、「かして」「あそぼ」「ありがとう」などの良い見本を見せ、真似を促してみましよう。体や手の動かし方が上手になってくると、力のコントロールもうまくいくようになります。力の強さを数字で表し、「お皿を置くときは1のちから」「ボールを蹴るのは10のちから」など目安を使うのも有効です。



相談 5

スプーンやはさみが上手に使えません。

まずは観察

歩く、走る、登る、転がるなど全身の運動の発達は順調ですか？目と手のチームワークはうまくいっていますか？

ちょっと工夫

子どもの体は大きな動作運動をたっぷり経験することで、指先などの末端の発達が促されます。全身あそびから、徐々に指先を使って楽しめるあそびを取り入れましょう。道具をうまく使いこなせない子どもものストレスも高まります。使いやすい道具や簡単な活動から始め、達成感を増やしましょう。



相談6

人への関心が薄くいつも一人で遊んでいます。

まずは観察

大人の真似をしたがりますか？名前を呼ぶとその人のほうに振り向きませんか？指差しなどで、自分の興味のあるものや要求を大人に教えますか？苦手な音など不安になるような刺激はありませんか？

ちよいと工夫

興味をもちそうなおもちゃを使いながら、子どもが喜ぶ動作をしてみましょう。人とかかわることは楽しいという体験やあそびのレパートリーが増えることで、人への関心へとつながっていくことがあります。

人への関心は毎日の生活習慣や社会で期待されるふるまいを身につける上で有効です。音など不快刺激のある不安な場所ではこだわりが強くでるものです。様子を見てあげましょう。

同じことを
してみるのもいいですよー



【コラム】 column

入園ワンポイントアドバイス



友だちとうまくあそべるかな？園に行きたがらなかったらどうしよう。先生のいうこともちゃんときけるかしら？わたし、ママ友と仲良くできるかしら？

子育てには喜びと不安がつきもの。子どもにとっても初めての集団生活。私も働きたいから、保育園にしようか、それとも幼稚園がいいかな。お勉強中心の塾もあるし、子どもの育ちに合せてじっくりかかわってもらえる療育機関もいいかも。

どこの園を選んだらいいかは、親の悩みの一つではないでしょうか。

まずはお子さんを観察してみましょう。ママやパパ、友だちの真似をしようとしているかな？ちょっとの時間なら座って活動に取り組めるかな？自分のことを自分でやりたがるかな？大人の話を聞こうとしているかな？生活のリズムが整い始めたかな？気になる点はメモをとって、こども発達支援センターで相談してみませんか。そのあとはお子さんと一緒に見学や体験入園をしてみましょう。ママが信頼をおけそうな園を選ぶことも大切なポイントです！

気づいてほしいな SOS (学齡期)

相談を寄せられる子どもたちのSOSを紹介いたします。子どもたちの様子をじっくり観察して、家庭や学校できそうなかかわりから工夫してみてください。

相談1

学校での勉強についていけません。

まずは観察

どのようなところでつまづいているか、観察してみましょう。読んだり、書いたりに苦手はありませんか？黒板を書き写すのに時間がかかっていませんか？絵や作文で何を書いたらいいかわかっているようですか？算数の繰り上がりや繰り下がりはどうですか？文章題や先生の指示で早とちりはないでしょうか？形を見分けられていますか？暗記のものはどうですか？よくモノにぶつかっていませんか？体や手先はうまく動かしていますか？

ちよいと工夫

本人も自分だって勉強や運動がうまくなりたいと思っているはず。どうしてできないの？なぜやらないの？ではなく、どうしたらうまくいくか一緒に考えてみましょう。

学習は知識の積み重ねに加え、ボディイメージや見えや聞こえ、記憶や注意、運動などさまざまな領域が関わっています。怠けで済ま^なまず、どこに苦手があるか探ることは、子どもたちに諦めさせない価値あるサポートのひとつです。



相談2

人の気持ちや状況が理解できません。

まずは観察

話しかけられると目をあわさないのに、自分の興味あることだと一方的に話してしまいますか？冗談を真に受けてしまいますか？会話がかみ合わないことがありますか？思ったことをストレートに言ったりやったりして、友だちとトラブルになることがありますか？

ちよいと工夫

ユーモアの感性がある一方、正直すぎて思ったことをストレートに言ってしまったり、その場の状況を読み取ったりすることが苦手な子どももいます。悪気はないので、コミック会話などを使いながら、相手の気持ちや状況を具体的に説明し、適切なふるまいを教えましょう。暗黙の了解などの会話の基本的なルールを教える事で、人間関係のトラブルを少なくしていくこともできます。一方で、好きな話題を話し合える仲間を見つける事や、決められた時間内に好きな話をさせてあげる事も、子どもの気持ちに寄り添^よう温かな支援のありかたでしょう。



相談 3

やる気がなく、学校を休みがちです。

まずは観察

本人のストレスが過大になっていませんか？

ちよいと工夫

思春期に入ると気持ちは定まらず揺れ動くもの。昨日は行くと言っていたのに今朝は行きたくない。自分の「もやもや」した気持ちの原因を

ことばで説明しきれない時期でもあります。一人の時間や空間を保障して見守るとともに、他人から「ありがとう」と感謝される経験や達成感を感じられる活動を取り入れていきましょう。家事は将来にも役立つ活動のひとつです。また、「～べき思考」が強まると、お互いのコミュニケーションは張り詰め、緊張したものになっていきます。「～でいい思考」が現状に変化をもたらすきっかけになることもあります。



相談 4

好きなことしかやりたがりません。

まずは観察

気持ちや行動の切り替えに時間がかかりますか？次にやることはわかっているようですか？約束やルールを守る環境ですか？

ちよいと工夫

子どもと相談して生活のスケジュールを決めましょう。大人が一方向的に決めたのでは子ども

の責任の持ち方が違ってきます。一日のスケジュールを紙やホワイトボードに書いたり、付箋に今日やることを書いて終わったらはがしたりなどすると、自分をコントロールする力を育てることにつながります。子どもだけでなく、周囲の大人も含め全員が約束やルールを守る環境づくりが大切です。時にはご褒美を活用するのも良い工夫です。そして、守れたら忘れずにほめ合しましょう。



相談 5

片付けが苦手で忘れ物も多くて困ります。

まずは観察

片付けをするときにゲームやおもちゃなど気が移ってしまうものはありますか？どうすれば片付くか分かっているようですか？物の置き場所は分かりやすく決まっていますか？何度言っても忘れてしまいますか？

ちよいと工夫

叱ってばかりだとやる気を失っていきます。気がそれるようなものにはカバーをかけておくなど、目に見えない工夫をすることが有効です。引き出しやカラーボックスなどは何を入れるか覚えたり、開けてみないと分からない場合があります。写真を貼ったり透明なボックスにしたりして、何をどこにしまい、置くか、一目でわかる工夫をしてみましょう。どう片付けたらいいか混乱しているようだったら、大人がやり方を見せたり、完成形の写真をはっておくのも役立ちます。忘れ物は少しずつ自分で管理できるよう、前日に確認する習慣やメモをとる練習が将来的にも役立ちます。



相談6

落ち着きがなく集中が続きません

まずは観察

気が散るようなものや人がそばにいませんか？落ち着かない音があったり、におい、暑さ寒さなどは影響していませんか？集中できる時間はどのくらいですか？指示や授業など分からないことが多いようですか？

ちよいと工夫

集中しやすい環境づくりが有効です。気が散るものは目に入らないようにカバーをしたり、片付けた

りしましょう。イスに滑りにくいカバーをかけたり、音やにおい、気温などが要因の場合は、できるだけ少なくしたりする工夫を試みましょう。本人のがまだけでは解決しない場合が多いものです。指示や授業は分からないことが多すぎると、その場にいるだけでも苦痛で集中は続きにくいものです。一定時間ごとに体を動かす工夫をしたり、個別に声をかけたり、具体的に教えたりして、子どもが「分かった！」「できた！」などの達成感を感じられる関わりも重要です。

ついたてのある机
(勉強に対する集中カアッ)



【コラム】 column

学校での支援を知ろう

子どもたちは、学校生活を通して、これまでの生活とは違った発見や楽しみ、充実感を得ていることでしょう。新しいクラスメイトや先生とのかかわる中で、興味や好奇心をふくらませ、社会性をはぐくんでいく時期でもあります。同時にお友だちとの関係や学習などに不安を感じていることもあるようです。特に入学や進級など、周囲の環境が変わるときに子どもたちの不安と期待はピークに。そばで見守っているご家族の心模様もさまざまでしょう。

特別支援教育がはじまり、それぞれの子どもの教育的ニーズにあわせて、生活や学習の困難の改善のために適切な指導や支援が準備されています。これは特別支援学校や特別支援学級に在籍する子どもだけではなく、通常学級にいる子どもも含め、すべての子どもたちへの取り組みです。

そこで、お子さんがどうも学校生活で困っているようだな、と感じたら、ご家族だけで抱え込まず、ぜひ担任の先生に相談してみましょう。きっと、お子さんの気持ちに寄り添った支援を一緒に考えてくれることでしょう。学校には、担任の先生以外にも専門的知識やネットワークを持った特別支援教育コーディネーターの先生がいます。また中学校にはスクールカウンセラーが全校に配属されていますので専門的な見地から相談にのってくれます。また、市町村の教育委員会やこども発達支援センターでも相談できますので、お子さんの困っていることが少しずつ減って安心して生活が送れるよう、一緒に考えましょう。

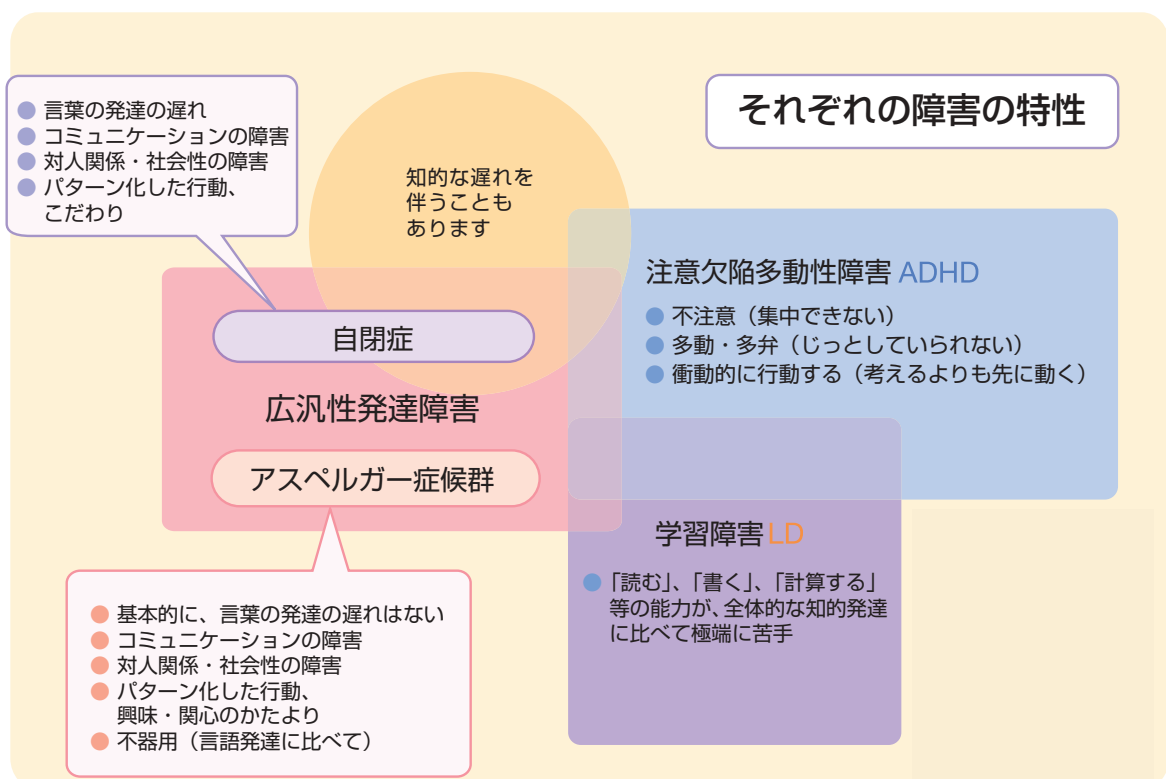
知ってほしいな 発達のこと

子どもの育ちはさまざま。うちの子はゆっくりなだけかしら？と置いていても、なんだかちょっと気になる。このまま見守っているだけでいいのかしら？育て方はこれでいいのかしら？と、常に不安を抱えながらの子育ては、ストレスがかかるものです。

子どもの発達のスピードや個性は一人ひとり違いますし、成長によっても変化します。しかし、何か困っていることがあっても子どもたちはまだ上手に話すことができません。代わりに体の不調で訴えたり、周囲が問題と思うような行動でSOSを出します。

なかでも、生まれつき発達のしかたに凸凹がある子どもたちがいます。発達の凸凹は誤解を受けやすい脳の特徴ですが、親の育てかたや本人の努力不足でおこるものではありません。また、ハンディキャップとしてずっと発達が促されないわけではなく、できるだけ早い時期から本人の育ちの環境や発達の凸凹を理解し関わることで、発達が促されます。困っていることが少なくなり、子どもたちはいきいきとした充実した生活が送れるようにもなります。大人になって凸（得意）を上手に活用し、活躍されている方はたくさんいらっしゃいます。一方で、発達の凸凹は本人の個性だから配慮はまったく必要がない、いつかはできるようになるだろうと判断してしまうのは、子どもが困っていることを見逃したり、二次障害を引きおこすことにもつながりかねません。

子どもの発達がちょっと気になるときに、「困った子ども」とみるのではなく、「子ども本人が困っているかも」、という視点を持つことはとても重要なことです。



厚生労働省発行 「発達障害の理解のために」より引用

高崎市サポートファイル

こども発達支援センターでは、乳幼児期から成人期までのライフステージを通して、さまざまな生活場面でお子さんの特性を適切に理解し、生涯にわたり安心して安全な生活を送ること、医療・保健・福祉・教育・就労等の関係機関が支援内容等の情報を共有し、一貫した支援を受けられることを願ってサポートファイルを作成しました。

サポートファイルは、お子さんの発達にかかわる大切な情報を集め、よりよい成長を目指すためのご家族向けの支援ツール（道具）です。以下のような4つのメリットがあります。



- 1 支援者に知って欲しいお子さんの特性や接し方などをまとめておくことで、支援機関や園・学校等との情報伝達・連携をスムーズにします。
- 2 成長するとともにかかわる支援機関が変わっても、同じ説明を繰り返すことが減り、また伝え忘れを防ぐことができます。
- 3 成長していくお子さんの姿をファイルにまとめていくことで、課題も整理され、安心して子育てができます。
- 4 情報が整理されていることで、緊急時や困ったときにも迅速に対応できます。

こういった資料を、一人でつくろうと思って、どのように書いたらいいかわからないし、うまく書けるか心配です。こども発達支援センターでは、サポートファイルの作り方や使い方のご案内をしています。いつでもご相談ください。



応援してほしいな

ぼく・わたしのこと

どのような子どもでも、友だちと仲良くあそびたい、勉強がわかるようになりたい、お母さんやお父さん、先生に認めてもらいたいと思っています。でも、周囲には見えづらい発達の凸凹があると、なぜかお友だちとのトラブルが多かったり、苦手な勉強や運動をさせて学校に行きたがらなかったりと、本人のわがままや努力不足と誤解を受けることもあります。

■子どもの得意を伸ばそう

友だち関係でも勉強でも、新しいことにチャレンジする土台となるのは、「きっと自分ならうまくいくはず」「ぼくは大切な存在だ」という自分に対する自信です。ほかの子どもとの比較ではなく、その子らしい得意を伸ばし、支えることは、子どもが成長する上で大きな力となるでしょう。発達の凸凹のある子どももほかの子どもと同じ。愛情と励ましが必要です。

そして、ちょっとしたアドバイス。そうすると、本来もっているユニークな視点や想像力と、細かなところに気づく才能と、驚くべき集中力やフットワークなどで、困難に立ち向かう自信やたくましさはぐくまれます。



■療育機関を活用しよう

障害があるといわれているわけでもないのに、専門機関に通わせるのはちょっと、と迷われる方もいらっしゃるでしょう。でも発達に凸凹のある子どもたちにとっては、園や学校の環境は複雑すぎたり、スピードが早すぎたりして混乱していることがあります。そのようなとき、専門の保育士や作業療法士や言語聴覚士、心理士が子どもの発達の状況に合わせてかかわりを工夫している療育を活用することで、子どもたちは確実に集団生活を送る準備を整えてゆくことができるようになります。小さな子どもたちは家庭でできる楽しいあそびを通して、身のまわりのことや、ことば、運動、製作活動、お友だちとのかかわりを身につけてゆきます。学齢期の子どもたちは社会生活で期待される基本的なふるまいやルールを学ぶことができます。親もスタッフや同じ立場のお母さんたちと心配ごとを話し合え、一人ではないことを感じられることでしょう。療育は早ければ早いほど、その後の子どもの困難は少なくなると言われています。まずは、どのような専門機関があるか相談したり、見学しながら情報を集めてみましょう。

きっと、子どもの得意を伸ばし、苦手をサポートする工夫が待っているはずですよ。



ひとりじゃないよ ご家族支援

子どものそばにいる大人たち、特に家族は、一番の支援者。でも、子どもたちが出すSOSのサインは時に分かりづらいもの。自分なりに子育てをしているけれど、このままで大丈夫だろうか。心配だけど、クラスメイトのお母さんや祖父母に話をしても、分かってもらえそうにない。そのようなとき、同じような立場や悩みを抱えている家族と話し合ったり、情報交換したりすることが大きな支えになることでしょう。

■高崎市こども発達支援センター

個別の相談のほかに、ペアレントトレーニングや家族向けの講演会、交流会などを開催しています。

■地域の家族会

下記のような、さまざまな家族会があります。

- ・群馬県自閉症協会
- ・ゆうあい友の会
- ・通級指導教室親の会など

■療育機関での家族支援

療育機関でもさまざまな家族支援が行われています。お子さんの療育に合わせて、家族相談やペアレントトレーニング、家庭訪問などを実施しています。



うんうん!

いろんな、あつまりがあるんだね。

ひとりじゃないんだ。

こども発達支援 センターのご案内

生活や学習面でのつまずきを抱える子どもたちが将来自立し、社会参加するために必要な力を培うため、「周りの環境を整える支援」「つまずきに
応じた支援」「自尊心や達成感が得られる支援」を関係機関と連携・協力し
ます。

さまざまな障害や発達課題があっても、毎日自分らしくいきいきと過ご
せるように、保護者や地域の方々と共にサポートしていきます。

■個別相談（予約制）

センターでは随時個別相談を実施しています。こ
どもの発達に気になることがあるときは、お気軽に
ご相談ください。親子のかかわりが楽しくなるペア
レントトレーニング等も実施しています。

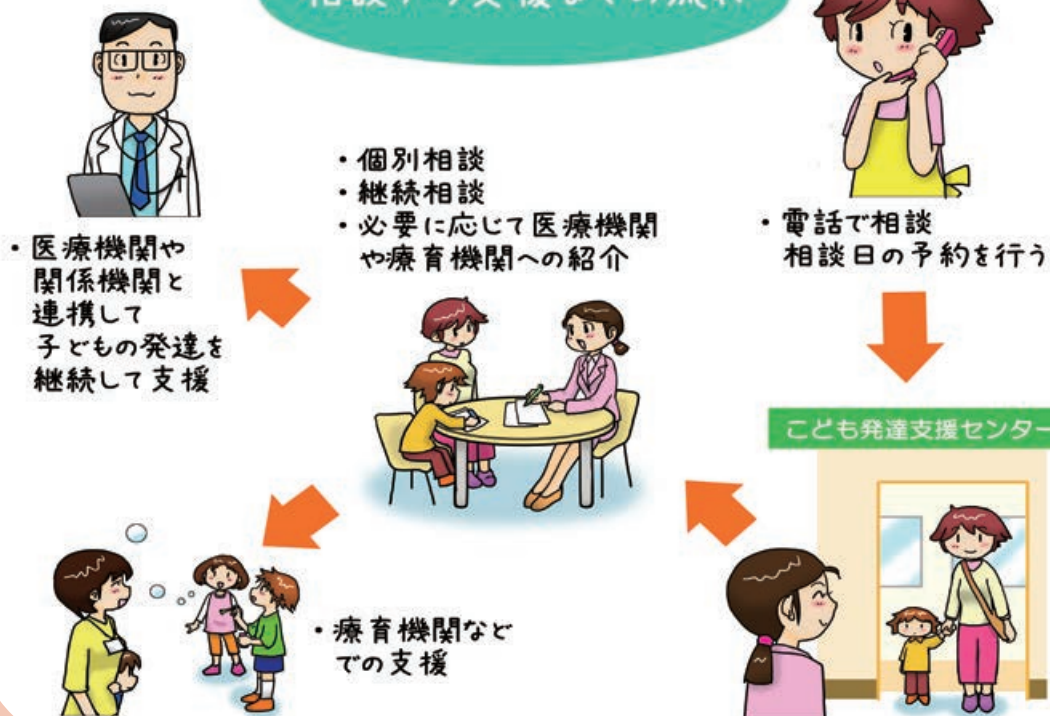
受付時間

毎週月曜日～金曜日（祝日、年末年始をのぞく）
9：00～17：00

ご相談の内容

- ・子どもの発達や行動について気になること全般
- ・言葉が遅い、不明瞭、吃音（きつおん）などの相談
- ・体の動き・運動面の遅れ、手先の不器用さなどの相談
- ・専門の医師による相談
- ・必要に応じて臨床発達心理士による検査
- ・地域の専門機関のご案内など

相談から支援までの流れ





こども発達支援センターでは、個別相談のほかに、いろいろな支援や相談を行っています。お気軽にお越しくださいね。

■巡回相談

保育所（園）、幼稚園、小・中学校などの集団生活の中で保護者・保育士・教職員等の何らかの気付きを適切な支援につなげていくために臨床心理士、保健師、教員等のスタッフによる巡回相談を行い、支援します。ご要望により、保育所（園）、幼稚園、小・中学校への訪問相談も随時行います。

■にこにこるーむ

各保健センターを会場に乳幼児の発達相談を行います。

■かるがもくらぶ

遊びを中心とした集団活動を行い、子どもの発達を促し親子を支援します。

■人材育成

乳幼時期や学童期に関わる保育士や教職員、保健師等のスキルアップ研修を行います。

■啓発活動

発達障害や発達に特性のある児童が、いきいきと安心して生活できる地域づくりには、支援者や地域の理解が不可欠です。多くの人に発達障害の特性を理解していただくために講演会を行います。高崎市のホームページや広報等でご案内しています。

子どもたちのさまざまな発達を支えるために、以下のスタッフで運営しています。
所長、保健師、保育士、教員、事務職、臨床心理士、臨床発達心理士、作業療法士、言語聴覚士など

ご相談の申し込み、ご不明な点のお問い合わせは、下記相談窓口まで。ご連絡おまちしております。



〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1
高崎市役所 17階 こども発達支援センター
電話 027-321-1351
FAX 027-326-9180
メール kodomo-hattatsu@city.takasaki.gunma.jp



相談機関のご案内

こども発達支援センターでは下記相談機関への紹介をしております

機関名	連絡先	内容	対象者
群馬整肢療護園 地域療育連携室 児童発達支援センター	372-3622	障害児の療育に関する相談	18歳未満
児童発達支援センター つくし園つくしんぼ	360-4318	障害児の療育に関する相談	18歳未満
はんな・さわらび療育園 児童発達支援センター	374-9221	障害児の療育に関する相談	18歳未満
高崎市総合保健センター	381-6113	子どもの健康・子育て全般	乳幼児期 ～ 就学前
箕郷保健センター	371-9060		
群馬保健センター	373-2764		
新町保健センター	0274-42-1241		
榛名・倉渕保健センター	374-4700		
吉井保健センター	387-1201		
高崎市福祉部障害福祉課	321-1245	障害福祉サービスや障害に関すること全般 問合せ：各支所市民福祉課へ	不問
高崎市障害者サポートセンター る～ぷ ・相談支援センター はんな ・相談支援センター アドネット ・藤田テクノ 相談事業所（指定管理）	370-8827	障害児者に関する総合的相談	主に身体・知的障害
地域相談支援センター サポートバルやちよ	327-3520		
高崎市社会福祉協議会 吉井相談支援事業所	387-3187		
障がい者・児相談支援センター さん・ぼ	346-1984		
相談支援センターソスタ	350-5550		
くわのみハウス相談支援事業所	350-3500		主に精神障害

相談機関のご案内



機関名	連絡先	内容	対象者
高崎市教育委員会 学校教育課	321-1293	就学相談、学校に関する相談、進路相談、障害に対する支援の相談等について	就学前～中学生
高崎市教育センター	329-7111	子どもの教育問題やしつけ、学校生活や学習についての悩みや不安の相談	幼児～高校生
【適応指導教室】			
①アクティブ並榎教室	323-6088	学校に行けずに悩んでいる小・中学生のためにさまざまな体験活動や学習の補充などを行い、学校に復帰できるように支援する。 ※ 見学・体験教室随時。 ※ 問い合わせは、各学校および教育センター	小学生 ～ 中学生 (市内在住)
②パブリック末広教室	370-8834		
③ユース台新田教室	346-7166		
④さわやか箕郷教室	371-5560		
⑤フレッシュ群馬教室	373-7613		
⑥すこやか新町教室	0274-42-1383		
⑦ふれあい榛名教室	374-1881		
⑧うしぶせの家吉井教室	387-3527		
通級指導教室			
①中央教室	325-7218	きこえ・ことば、人とのかかわり、行動・こころ、学習に、困り感のある子どもの指導	幼児～中学生
②中居教室	353-2112		
③金古教室	372-2342		
④下室田教室	374-1711		
⑤城山教室	325-3155		
高崎市立養護学校	352-2928	知的発達、情緒、発達障害（自閉・多動・学習困難）等の相談支援	幼児～中学生
西部児童相談所	322-2498	ことばや発達のおくれ、性格行動、非行、虐待等の相談	18歳未満
群馬県立盲学校	027-224-7890	視覚に関すること	不問
群馬県立聾学校	027-223-3233	きこえやことばに関すること	乳幼児～高校生

療育機関のご案内



法人名	事業所名	住所	連絡先	対象者				事業型
				未就学児	小学生	中学生	高校生	
社会福祉法人 榛桐会	はんな・さわらび療育園	榛名山町 28-30	374-9221	○	○	○	○	(児発セ) (放課後)
社会福祉法人二之沢愛育会	群馬整肢療護園 発達支援センター	足門町 146-1	372-3623	○	○	○	○	(児発セ) (放課後)
社会福祉法人 浜川会	つくし園	浜川町 735-1	360-4318	○				(児発セ)
NPO法人藍LOVE	アーリーライフクラブ あいらぶ(中居)	上中居町 1204	352-2202		○	○	○	(放課後)
NPO法人藍LOVE	アーリーライフクラブ あいらぶ(矢島)	矢島町 497-2	386-2525		○	○	○	(放課後)
社会福祉法人ぐんぐん	学童クラブぐるりんぱ	足門町 1397-4	381-6100		○	○	○	(放課後)
NPO法人手をさしのべて	グローイング	田町 105	387-0095		○	○	○	(放課後)
NPO法人リンケージ	そらまめ	江木町 979-3	345-7390	○	○	○	○	(児発) (放課後)
NPO法人はっぴいまるまる	はっぴいまるまる	片岡町 2-33-11	388-0660		○	○	○	(放課後)
社会福祉法人 高崎市社会福祉協議会吉井支所	高崎市社会福祉協議会吉井 はばたき	吉井町吉井 486-1	387-8046	○	○	○	○	(児発) (放課後)
NPO法人ノア	学童クラブハーモニー	柴崎町 1746-1	347-8108		○	○	○	(放課後)
NPO法人ノア	児童発達支援事業所 ひまわり	上並榎町 1376	344-2525	○				(児発)
NPO法人ノア	学童クラブひまわり	藤塚町339-4	321-3675		○	○	○	(放課後)
有限会社 ウィルビ・ケアサービス	フリー・ウィル インフィニティ	倉賀野町 1726-10	381-6067		○	○	○	(放課後)
	こども発達支援室 ほっぷ (高崎市総合福祉センター内)	末広町115-1	370-8858	○				

*事業型の略称：(児発セ) 児童発達支援センター (児発) 児童発達支援 (放課後) 放課後等デイサービス

だいじょうぶ。ちやんと大きくなるよ。

ポコ ア ポコ Poco a Poco!



ひとりじゃないよ!

発行日	平成24年4月1日
発行者	高崎市こども発達支援センター
製作・編集	NPO法人リンケージ